

ドイツ・ロマン派詩人ハイネと技術革命

Heinrich Heine und die technische Revolution

Referent:
Prof. Dr. Dr. h.c. mult. Volkmar HANSEN

フォルクマー・ハンゼン
前デュッセルドルフ・ゲーテ博物館館長
デュッセルドルフ大学教授

3. Juni 2013, 18:15

2013年6月3日(月)

18時15分開始

Universität Tokyo, Komaba Campus,
18. Bld., 4. Stock, Collaboration Room 1

東京大学駒場キャンパス
18号館4階 コラボレーションルーム 1

日本ではローレライの歌詞や『歌の本』で知られるロマン派の詩人ハインリッヒ・ハイネ(1797-1846)は、辛口の政治批判を得意とするジャーナリストでもあった。それゆえ彼はドイツ当局に睨まれ、パリに移住を余儀なくされ、そこで生涯を閉じた。このハイネこそ、二足の草鞋を履くことなく、文筆家として生計を立てることができた最初のドイツ詩人と言えるだろう。

本講演では、詩人ハイネと19世紀ヨーロッパにおける科学技術との関わりを、蒸気機関車や蒸気船、ガス灯、ピアノ、銀板写真などの例を挙げながら、ハイネの故郷デュッセルドルフ大学のドイツ文学研究者でもあるハンゼン氏にお話しいただく。

【講演者略歴】

フォルクマー・ハンゼン

(Prof. Dr. Dr. h.c. mult. Volkmar HANSEN)

前デュッセルドルフ・ゲーテ博物館館長

デュッセルドルフ大学教授

(正式名称:ハインリッヒ・ハイネ大学デュッセルドルフ)

ボンとデュッセルドルフの両大学でドイツ文学と歴史学を学ぶ。1974年に哲学博士号 Dr.phil.、1989年に教授資格Habil.取得。デュッセルドルフ大学で教鞭を執るかたわら、1993年から今年3月末まで20年間、カタリーナ&アントン・キッペンベルク財団デュッセルドルフ・ゲーテ博物館館長を勤めた。ドイツ国内の独立文化施設とユネスコ文化財団委員長としても活躍。専門分野はゲーテ、トーマス・マン、ハイネなどの近現代ドイツ文学。

対象:教員・大学院生・学生はもちろん、
一般の方も歓迎致します。

講演使用言語はドイツ語ですが、
Power Pointを使った日本語同時翻訳がつきます。
(翻訳担当:石原あえか)

ドイツ語の予備知識がなくてもご関心のある方は、
ぜひご参加下さい。

主催:日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究(B) (研究代表者:鍛冶哲郎)
「科学の知と文学・芸術の想像カードイツ語圏世紀転換期の文化についての総合的研究」

問い合わせ先:東京大学 大学院総合文化研究科 鍛冶研究室

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

E-mail: wissen@phiz.c.u-tokyo.ac.jp URL: <http://phiz.c.u-tokyo.ac.jp/~wissen/>